

2025年度 JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座(案)
プログラムNo. 4：稲作技術向上（普及員） プログラム概要票

別紙①-4

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名：	稲作技術向上（普及員）コース
2) 担当者名：	落合 智佳子（研修コース委託先業務総括：央戸氏）
3) 期間（日数）：	9月1日（月）～9月5日（金） 5日間
4) 定員：	受入人数 2人程度
5) 言語：	英語(実施内容を英語実施のため理解できること) ※目安(TOEIC600点程度) 必ずしもTOEIC等の点数が十分でなかったとしても、積極的に研修員と言語・非言語のコミュニケーションを取る姿勢を有すること。
6) 主な対象学生：	生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国：	ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、コンゴ民主共和国、ガンビア、ガーナ、リベリア、マダガスカル、モザンビーク、セネガル、南スーダン、ウガンダ、ザンビア

2. コンテンツ

本プログラムの目的	実験・実習を通して稲作技術（特に収量調査）を理解するとともに、研修員との交流を通じて異文化を理解する。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ		概要
1	2025/9/1	月	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション（日本語）		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-09:40	大学生講座参加者の自己紹介		
			09:45-12:15	光合成と乾物生産②（講義）		・坪刈りや五斜線法によるサンプリング収穫を行い収量調査を実施する。 ・バインダーやコンバインによる機械による収穫作業を実習する。 ・実験グループ別に区画ごとのサンプル株を用いて収量及び収量構成要素を比較検討することにより稲の特性（特に収穫量）を理解する
			13:30-16:00	実験/実習（収穫及び収量調査）		
2	2025/9/2	火	09:45-12:15	実験/実習（収穫及び収量調査）		
			13:30-16:00	実験/実習（収穫及び収量調査）		
3	2025/9/3	水	09:45-12:15	筑波大学 T-PIRC 10号圃場 収穫作業、脱穀等		
			13:30-16:00	筑波大学 T-PIRC 10号圃場 収穫作業、脱穀等		
			17:00-17:30	中間レビュー（日本語）		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）。
4	2025/9/4	木	09:45-12:15	実験/実習（収穫及び収量調査）		・坪刈りや五斜線法によるサンプリング収穫を行い収量調査を実施する。 ・バインダーやコンバインによる機械による収穫作業を実習する。 ・実験グループ別に区画ごとのサンプル株を用いて収量及び収量構成要素を比較検討することにより稲の特性（特に収穫量）を理解する
			13:30-16:00	実験/実習（収穫及び収量調査）		
5	2025/9/5	金	09:45-12:15	実験/実習（収穫及び収量調査）		
			13:30-16:00	図表の作り方（講義）		
			16:15-17:15	プログラム振り返り（英語）		プログラムでの学び等を発表

3. 留意事項

・ 上記日程表は現時点での案であり、稲の生育状況、天候等の都合により変更の可能性があります。 ・ JICA筑波の圃場または筑波大学農場における作業（収穫及び収穫前の収量調査やサンプリング作業がメイン）を行いますので、研修員同様に水田内に入り稲刈り鎌を使います。そのため長靴（田植え長靴ではない通常のゴム長靴）と作業手袋、汚れてもよい作業服、帽子、雨除けのレインコートを持参してください。 ・ 稲刈りの機械実習では安全のため髪の長い方は対策をお願いします（束ねるか三つ編みにして帽子内に収めるなど）。また機械の扱いに危険な服装や身なりと判断される方は、代わりに機械を扱わない他の作業を行っていただきます。 ・ 開始時間には時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。
--

4. 学生さんへ一言

国内での国際協力現場を体験できます。研修実施関係者や研修員と積極的に関わることで、稲作技術以外にも、多くのことを学べる実りあるプログラムとなります。英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
--

5. その他

・ 一定の自然科学的知識を有している学生を対象として想定しているため、文科系の方には分かりにくい部分があることをあらかじめ了承の上ご参加下さい。
--